

じんしん

青山晴江

あさ　ここで

だれかが　しんだ

よるふかく

そのせんろのうえを

カタコトでんしゃがはしる

まどのそとには

しかくいビルの

ろうかのあかりが

つづくばかり

あさ　ここにいた　だれか

もう　いない

名前も顔も知らない　知らされない誰か　たくさん

の誰か　空中に飛び散った血しぶき　そのずっと前

に追い詰められ　砕け散った心　あなたが死んだの

▶ 詩の作者 ◀

青山 晴江 (あおやま・はるえ)

1952年東京生まれ。葛飾区在住。80年、日本文学学校・菅原克己の詩の組会に参加、詩誌『P』の同人となり現在に至る。詩集『父と娘の詩画集—ひとときの風景—』(2006年 西田書店)、『ろうそくの方程式』(2016年 土曜美術社出版販売)。日本現代詩人会会員。詩誌『つむぐ』『いのちの籠』に参加。その他の活動として、新宿西口反戦意思表示、たんぼぼ舎・原発再稼働阻止全国ネットワークボランティアなど。

はなぜか 生きていられないほどにあなたを追い詰
めたものはなにか 毎日どこかで走り迫る電車に我
が身を投げる たくさんのたくさんの誰か 人身：

おおみそかの あさ

また だれかがしんだ

でんしゃのなかで

ひとびとは——わたしも

とけいばかりみて

ケイタイばかりみて

じぶんのために

ためいきをつく

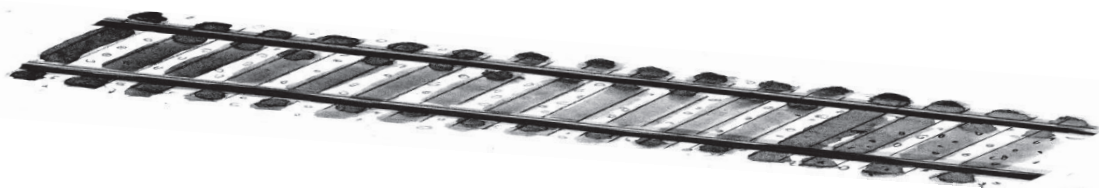
ふゆのそらは

どんよりと おもい

あさ ここにいた だれか

もう いない

(戦争と平和を考える詩の会刊『いのちの籠』第32号所収)



▼ 表紙絵の作者 ▲

大谷 誠之助

(おおたに・せいのおすけ)

1939 (昭和14) 年4

月、東京美術学校 (現・東

京芸術大学) 図画師範科入学。

1941 (昭和16) 年12月繰

り上げ卒。生没年ほか詳細

不明。遺影なし。